

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475201042
法人名	有限会社ウエル創建
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれあいの家 白鳥(ユニット名:サルビア)
所在地	宮城県仙台市宮城野区白鳥1丁目34-12
自己評価作成日	令和 6年 1月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 6年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災の被害地域という事もあり、地域の方々との繋がりを大切にしたいと考え、地域との交流を大事にしています。しかし、今年も昨年同様にコロナの影響により地域との交流は図れませんでした。それでも事業所内で出来る事を考え、楽しく過ごして頂けるよう昨年同様に力を入れました。(事業所の施設内での夏祭り、芋煮会、クリスマス会等)  
白鳥事業所の独自の取り組みとして「FamilyCare」というものを行っています。入居者様だけではなく、ご家族様のケアも行うという内容です。ご家族様が安心して過ごして頂けるよう、ホームで入居者様がどのような形で地域資源との繋がりを保持して過ごされているかを写真と共にお伝えしています。今後も地域密着を大事にし認知症の理解と交流が図れるようにしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR陸前高砂駅から車で5分の七北田川沿いの白鳥団地の一角にある。現在建て替え中で、1ユニット6名の入居者となっている。10月のリニューアルオープンで2ユニットでの再スタートを予定している。人間らしくあるという意味のユマニチュードというケア技法を実践している。4つの柱「見る・話す・触れる・立つ」の触れるを意識し、介助時はそっと背中を触れる等で安心感に繋げている。眠れない方へは薬に頼らず、リビングで見守りを行っている。管理者を中心に、アットホームな雰囲気作りや個々に合ったケア、楽しい思い出になるようなイベント企画、地域との交流で中学校へ車椅子の使い方の講習を行う等に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあいの家 白鳥) 「ユニット名:サルビア」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に会社・ホームの理念を提示している。朝礼時にはスタッフと唱和し、日々のサービスに反映させる努力をしている。	「ありのままの心を大切に」等のホーム理念は、年度末のユニット会議で振り返りを行い、継続する事と決めた。その人らしさを尊重するケアを目指し、背中や手をそっと触れながら声掛けする等を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナの影響で地域との交流ははかれず。	町内会の回覧板で地域の情報を得ている。週1回の公園清掃に入居者と参加している。中学生の職場体験時は孫のようだと会話が弾んでいた。地域包括主催の認知症カフェで、「グループホームとは」を説明している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年もコロナの影響で地域との交流は少なかった為、入居者様と公園の清掃活動を行う事で地域貢献をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナの影響で事業所での開催は出来ず、書面にて開催し苑での状況を報告しています。意見書をも頂いております。	メンバーは地域包括職員や民生委員、町内会長、家族等である。書面開催で6回実施した。議事録を届ける時に「意見書」を同封し、意見や要望を貰う工夫をしている。労いの言葉が届いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は図れていると思います。不明な点がある際は、教えて頂いております。	生活保護の方の状況報告や申請等で連絡を取っている。2ヵ月毎に地域包括職員が訪れ、入居者の転居先相談や空室案内などで情報交換を行っている。ケアマネ研修や認知症サポーター研修等の連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束の意味を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また身体拘束・不適切ケアかものBOXを設置し投函された内容について身体拘束等、適正化委員会で話し合いをしています。	法人で毎月開催される「身体拘束適正化検討委員会」に管理者が参加し、事例を挙げ対策を話し合っている。「自己評価表シート」を用い、現状を把握し原因を深掘りしている。導き出した改善策を職員間で共有し、適切なケアに繋げている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等などに積極的に参加し管理者・職員は、ヒヤリハットの活用や日々の会議においてグレーゾーンに属されないケアに注意を行い防止に努めている。	身体拘束と虐待の研修を年2回実施し、不適切ケアの理解を深めている。声掛け等気になる事は、その都度職員間で話し合っている。管理者は職員と話す機会を作り、悩み等相談しやすい環境整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人(入居者様)の尊厳を保ち、制度への理解を活用する為、外部研修等で学習の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に契約書・重要事項説明書を詳しく説明し入居者様や家族様等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い理解と納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話が来た際に意見を聞かせて頂いている。ケアマネージャー、管理者、主任が入居者やご家族様から意見や要望を聞かせて頂いている。	「利用者アンケート」を家族に実施している。面会時や体調変化時等に電話で入居者の状況を伝え、家族の意見を聞いている。「様子を知りたい」との要望に、テレビ電話や写真を送る等で交流が図れるようにした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの提案や意見は会議の際に十分に聞くようにし、その際に出た意見や提案は社長に報告し風通しの良い職場作りをしている。	物品購入やイベント開催等は、職員の意見を基に実施に繋げている。3ヵ月毎に業務内容の見直しを行い、残業を無くしている。「いいねカード」で評価する法人の取組みがあり、職員の励みに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や資格に応じて給与水準を上げていく。職員の希望を十分に聞き入れ各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト制での勤務の為、スタッフ全員での勉強会を行う事は難しい。外部から呼んで勉強会を開催したり、また社内研修の内容も充実させている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長・部長・係長を交えて系列の施設4事業所の管理者が毎月2回会議を行っている。また社内で行われている会議や研修に参加しサービスの質の向上に努めている。また社外の同業者とも情報交換を積極的に行っている。	日本歯科協議会主催の「口腔ケアや嚥下について」の研修に参加した。資料を職員回覧し、日々のケアに活かしている。居宅支援事業所や病院の医療相談室等と、入居希望者の情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や入居時に安心した生活が送れるように不安や困難事項を早期に対応し、入居者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり入居者様・ご家族様の意見(困難事項・不安要素)を十分に聞きニーズを引き出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居様の状況を見極め何が必要か医療関係・他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来る事は可能な限り本人にして頂き出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らしていける信頼関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来所時や電話を利用して入居者様の近況の報告を行っている。時には家族の協力を得て、ご本人様をサポート出来る関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のこれまでの生活歴を記録に書き入れ職員で共有している。グループホーム内での親しい関係づくりにも力を入れている。	テレビ電話を利用した「Family Care」で、家族と交流を図り関係継続を支援している。以前住んでいた地域にドライブする事もある。訪問理美容師や週1回の清掃で出かける公園が、新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係が円滑になる様に職員が見守り、関わり合い支え合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も必要に応じ、相談や支援を行える体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いを傾聴し意向に添えるように努めている。	日常の会話から、食べたい物や行きたい所等の把握に努めている。ノンアルコールビールや水族館への外出、家事等の役割を持って貰う等で叶えている。欲しい鞆の色や形の確認に、インターネット画面を活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え、安心して生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告・相談・連絡を行いチームケアとしてケアカンファレンスを行っている。	居室担当職員を中心に、毎月モニタリングを行い個々に合った支援方法を話し合っている。食事量の指示や補食について、医師の意見を聞きプラン変更に活かしている。プラン変更時は家族に説明し、意見を貰う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に内容の実践・取り組み・気づき等を記入し職員間で情報共有して介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、マニュアルに縛られず柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券やタクシー券を利用、負担の軽減に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先してかかりつけ医を決定している。訪問診療(内科)が月2回往診し入居者様の状態が変化した際には相談出来ている。	全員が月2回の訪問診療を利用している。皮膚科や眼科等の専門医受診は、原則家族付添いだが、有料で職員が付き添う事が多い。緊急時は管理者が判断したり、主治医の指示を仰ぎ対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来所し日常の状態の報告・健康管理・相談・助言等で個々の入居者様が適切な受診や看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は安心して治療に専念出来るように家族・医療関係者と密に情報交換し早期に退院出来るように常に医療関係者との関係づくりに取り組んでいる。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について苑で出来る事、出来ない事の説明を行っている。また往診と契約している入居者様のご家族様には、必要な場合は医師と終末期について話をしている。	入居時に「重度化及び看取りの指針」で説明し、「看取りにおける確認事項」で本人や家族の意向を確認し同意を得ている。看取り期は、いつでも面会可能にして家族で過ごす時間を支援している。研修や振り返りで、職員の精神的ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や訪問看護師より予測される急変の際への対処方法を事前に確認し全職員に周知している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。	夜間想定を含む2回の火災訓練と、津波や地震による垂直避難を実施している。火災時の2階からの避難が課題に上がっている。施設リニューアル時に避難経路を考慮する予定である。備蓄品は1週間分備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	考慮しながら伝わりやすい言葉を選んで声掛けを行っている。拒否がある場合は時間を置いたり、スタッフを変えて対応している。言葉使いが馴れ合いにならないように気を付けている。	入居者と話す時は、人生の先輩として丁寧な言葉遣いで対応し、否定せず傾聴する事を心掛けている。入浴や排泄時はドアを閉め、居室への入室はノックをしてからと羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時間や出前を取る際には、何が良いのか選択して頂いている。おやつも毎回ではないが、選択できる機会を作りご本人様の意思を聞くようにしている。したいことや、食べたい物もお誕生日等に叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング等で、個人で過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。食事する時間や場所も希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪切りは、出来ない方にはスタッフが支援している。衣類は希望によってスタッフ同行し購入支援を行っている。訪問理美容もお願いし、髪の毛もご本人様の好みで染めたり、カットしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いを行って頂ける入居者様は減っているが、盛り付けや食器洗い、食器拭きのお手伝いをして頂いている。	配食業者から届く材料で、刃物を必要とする作業以外は入居者と一緒に調理を行っている。焼き芋のキッチンカーに来て貰ったり、寿司の出前が喜ばれた。おかずが見えやすい食器にする等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心臓病の病気の方には体重の増減に関しては医師に相談し提供する量を決めている。個別にドリンクゼリー等を購入しその方に必要な補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方はスタッフが介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄のパターンを把握し必要時にトイレの声掛け、誘導を行っている。自らトイレに行く場合はパットの確認をさせて頂いている。	1名以外はトイレでの排泄を支援している。失敗時は「誰にでもある事だから気にしないで」等と声掛けして入居者の気持ちに配慮している。睡眠を優先し、夜間のみパッドを使用する入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にお茶やお水を飲んで頂いている。腹部マッサージや温めを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回は入浴していただけるよう声掛けをさせて頂いている。ご本人様の状態や体調に合わせて清拭等を行っている。	一番風呂などの希望に応じている。森林浴の香りの入浴剤や演歌などの音楽、昔話しながら入浴を楽しんでいる。入浴したくない方と一緒に風呂掃除をしたり、足浴等で風呂に慣れて貰い入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい方には休んで頂いている。夜間眠れなくなる方には早めに起きて頂くよう声掛けをさせて頂いている。ご本人様のこだわりに合わせて、布団の好みや室温の調整等をして眠りやすい環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、飲み間違いがないようにしている。スタッフ間で服薬ミスがおきないようにダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、たたみ、食器拭き等その方のADLに合わせた役割をして頂いている。気分転換になるので、苑での買い物やご本人様の買い物をして頂いている。お花が好きな方には草取りや花植え等出来るように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に外出出来ない時があるので、買い物や外出の予定を立てて出かけるようにしている。	毎月外出のイベントを企画して外に出る機会を作っている。うみの杜水族館や花見ドライブで農業園芸センターに出かけた。公園清掃や散歩が気分転換となっている。畑での野菜作りや洗濯物干し、お茶会を外で開催する等で外気浴や日光浴に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のお小遣は苑の事務所にてお預かりし、金銭管理を行っている。買い物時には支払いが出来る入居者様にはお財布をお渡しし、支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時には事務所の電話をお貸しし話をして頂いている。ご家族様からの贈り物にはお礼の手紙を書いて送れるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、季節のイベント時に飾り付けをし季節を感じて頂けるようにしている。	リビングは整理整頓され、エアコンや加湿器で過ごしやすい環境を整えている。掃除は夜勤者が担当している。見やすい時計とカレンダーが設置してある。日課のラジオ体操やテレビ番組のDVD鑑賞、読書、日記を書く等で思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係を配慮した席にしている。ソファの配置は入居者様同士が話しやすい位置にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みのある家具等を持って来て頂いている。家具を持って来ていない入居者様には、必要に応じて購入支援を行っている。	クローゼットとエアコンが備え付けで、ベッドや衣装ケース、テレビ等を持ち込んでいる。家族写真や歌手のポスターを飾っている。居室は休む場所と捉えている方が多い。扉に名前を貼り分かり易くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が分からない入居者様には、居室のドアにカッティングシートを貼り色で分かりやすくしている。またトイレ、便所など個々に呼び方が違う為分かるようにしている。		